



TITLE:

## 生活史研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

河合, 雅雄; 杉山, 幸丸; 大沢, 秀行; 森, 明雄; 丸橋, 珠樹

---

CITATION:

河合, 雅雄 ...[et al]. 生活史研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1984, 14: 19-20

ISSUE DATE:

1984-09-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163326>

RIGHT:

食物の生産量調査を行っている。

9) ゼニガタアザラシのセンサスの入網溺死個体の生物調査

和田一雄

センサスは8月と9月に実施した。死亡個体についての胃内容物、内部生殖器組織検索、等を行った。

総 説

- 1) 野沢 謙(1983):日本の家畜とその系統。  
「日本文化の原像を求めて\*日本農耕文化の源流」(佐々木高明編) pp. 213~242. 日本放送出版協会。

論 文

- 1) Minezawa, M and Valdivia B., C.J. (1984): Cytogenetic Study of the Bolivian Titi and Revision of its Cytotaxonomic State. Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys IV: 39-45.
- 2) Minezawa, M and Valdivia B., C.J. (1984): Cytogenetic Study of the Bolivian Monkeys: 1 Preliminary Report on Karyotypes of *Cebus apella*, *Saimiri sciureus*, *Aotus azarae* and *Saguinus labiatus*. Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys IV: 53-67.
- 3) Wada, K. (1983): Long-term Changes in the Winter Home Ranges of Japanese Monkeys in the Shiga Hights. Primates 24(3): 303-317.

研究報告・その他

- 1) 川本 芳(1983): 遺伝的変異から見たマカク属の分化。モンキー, 27:32-37.
- 2) ニホンザルの奇形に関する総合的研究  
— 奇形の実態調査と原因究明 —  
昭和56-58年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書(分担者:野沢 謙、峰沢 満)
- 3) 和田一雄, 羽山伸一, 宇野裕之, 中岡利奈, (1983): ノサップ岬の秋サケ定置漁業におけるゼニガタアザラシの被害について。鯨研

通信, 853: 53-64.

学会発表

- 1) 川本 芳, 庄武孝義, 野沢 謙: 島嶼性マカク3種の群間分化の比較. 日本遺伝学会第55回大会(1983).
- 2) 川本 芳, 寺尾忠治, 長文 昭: カニクイザル集団の遺伝分化—マレーシア, インドネシア, フィリピン集団の比較—. 第28回プリマーテス研究会(1984).
- 3) 峰沢 満: ニホンザル(*Macaca fuscata*) 幸島群のC-バンド変異. 日本遺伝学会第55回大会(1983).
- 4) 峰沢 満: ボリビア産新世界ザルの遺伝的変異—予報. 第28回プリマーテス研究会(1984).

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹<sup>1)</sup>

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大沢秀行・森 明雄

西アフリカ・カメルーン国の南部熱帯多雨林において1979年より地上性のマンドリルの調査が採食生態学的観点を中心に継続中であり、1982年からは同所に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。さらに1983年からは同国北部の乾燥サバンナにおいてパタスザルおよびベルベットザルの調査も、草原適応の観点から開始された。これらの相互比較によって同一亜科に属する各種の異なる環境への適応様式が明らかにされつつある。

- 2) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・丸橋珠樹

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり、詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。一方、霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され、各社会階層との関

1) 学振奨励研究員

連において追及されている。また屋久島永田地域では野生群において採食行動を通じた個体間関係と社会構造・個体群動態の究明が進められている。

### 3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

杉山幸丸

ハヌマン・ランゲールで最初に確認された野生動物(哺乳類)社会における種内子殺しの近因と遠因、その相互関係を、野外調査を交えながら理論的に考察している。

### 4) ベルス・チンパンジーの行動生態学的研究

杉山幸丸

1982年度に遂行した西アフリカ・ギニアにおける野生個体群の現地調査の結果も含め、1976年から6年半の全個体識別による出生・死亡・消失・移出入等の個体群動態の長期的把握と道具使用・広義のあいさつ行動等のチンパンジーの特異的行動のまとめを行っている。

## 総 説

- 1) 河合雅雄(1983):サルからヒトへ〈4〉—食性と形態からみたヒト化。創造の世界, 45, 120-157.
- 2) 河合雅雄(1983):サルからヒトへ〈5〉—遊動生活を考える。創造の世界, 46, 120-143.
- 3) 河合雅雄(1983):サルからヒトへ〈6〉—サルたちの一日。創造の世界, 47, 144-167.
- 4) 河合雅雄(1983):サルからヒトへ〈7〉—道具を使うサル。創造の世界, 48, 134-163.
- 5) 杉山幸丸(1984):“サルを見て人間本性を探る”, 農文協(東京), 263 pp.
- 6) 杉山幸丸・松沢哲郎(1984):チンパンジーは語る。望星, 15(4), 36-51.
- 7) 杉山幸丸(1984):現代人の動物観。ライフサイエンス, 11(3), 20-24.

## 論 文

- 1) Mori, A. (1983): Comparison of the communicative vocalizations and behaviors of group ranging in mountain gorilla, chimpanzees and pygmy chimpanzees. *Primates*, 24(4): 486-500.

## 学会発表

- 1) 河合雅雄:エチオピア高原のヒヒの社会。第

20回日本アフリカ学会, 富山(1983)。

- 2) 杉山幸丸:ハヌマン・ランゲールの“子殺し”はどれだけ個体数を調節しているか。第30回日本生態学会, 松本(1983)。
- 3) 杉山幸丸:子殺しハヌマンはどこで競り合っているか。第11回個体群生態学会, 春日井(1983)。
- 4) 杉山幸丸:西アフリカ・ギニアのチンパンジー。第2回日本動物行動学会, 京都(1983)。
- 5) 大沢秀行:ケニア北部に分布するグレービーシマウマの集団構造。第20回日本アフリカ学会, 富山(1983)。
- 6) 丸橋珠樹:屋久島に生息するニホンザル群の遊動域と個体数の関係。第30回日本生態学会, 松本(1983)。
- 7) 大井 徹・丸橋珠樹:屋久島におけるニホンザルの採食行動に関する二群間での比較研究。第28回プリマーテス研究会(1984)。
- 8) 岡安直比・丸橋珠樹:ニホンザルの vocalization. — 第1位メスの calling について —。第28回プリマーテス研究会(1984)。

## 生 理 研 究 部 門

大島 清・目片文夫・林 基治・野崎真澄  
清水慶子<sup>1)</sup>

### 研究 概 要

- 1) 生殖リズムの中枢機序に関する研究

大島 清

今まで特にニホンザルについて月周期・年周期リズムにともなう種々の正常値を測定してきた。今後、特にニホンザル繁殖リズムの季節性に関する中枢機序を解明する目的で、電気生理学的、生化学的、微細構造学的、生理的方法によって研究を進めている。

- 2) 胎児の生理学的内分泌学的研究

大島 清・清水慶子

羊水中に浮かぶ水棲動物としての胎児が外環境の刺激をどのようにとらえているか、また分娩発来に胎児が内分泌学的にどこまで関与しているかを明らかにする。外環境の刺激としては、現在、音と光を主体にした生理的実験を行っている。

- 1) 教務職員